

クラウドにおけるシステム運用スキルセットの研究

ースキルレベル視覚化によるクラウド運用組織および 個人の強み弱みの明確化ー

アブストラクト

1. 研究の背景と課題

クラウドの利用が拡大し、システム運用の業務対象がオンプレミスのみからクラウドを含めたものへと広がっている。しかし、クラウドに関する運用スキルを持った人材が不足しており、新たな人材を採用することも難しい。そのため、自組織内においてクラウド運用スキル教育が重要となっている。

現在、システムの開発や運用に関するスキルマップとして IPA が提示している「IT スキル標準」等があるが、クラウドに関する要素が不足している。また、各クラウドベンダー掲示のスキルマップは存在するが、一般的な内容ではない。このようにクラウド運用スキル教育の指針となるものが存在していないため、各組織ではクラウド運用スキル教育を模索している。

2. 仮説と検証方法

クラウドの技術要素に対応したスキルセット（システム開発・運用において必要な技術的要素群）を定義し、スキルマップ（組織および個人のスキルレベルを評価するツール）として視覚化することができれば、クラウド運用スキル教育を模索している組織の助けになる。よって、本研究での仮説を「クラウド運用に必要なスキルセットを定義し、スキルマップとして視覚化することで、組織や個人の強み弱みを把握することができる」と定める。さらに「組織および個人の強み弱みを把握することで、スキル強化のための次のアクションへと繋げることができる」という点についても検証する。仮説検証方法は以下の通りである。

- (1) スキルレベル視覚化のために、クラウドベンダー非依存のスキルセットを定義した「クラウド運用スキルマップ（個人用／組織用）」を作成する。
- (2) クラウド運用スキルマップを複数の組織に適用し、アンケートで「組織および個人の強み弱みを明確化できたか」の有用性を評価する。

3. 結果と考察

アンケートの結果、「クラウド運用スキルマップ（個人用／組織用）を利用することで、現在のクラウドサービスにおける組織および個人の強み弱みを明確にすることができた」という評価を得た。よって、「クラウド運用スキルマップ（個人用／組織用）」は組織の強み弱みの明確化に有用と考える。

さらに、強み弱みが明確になった結果、「教育計画や組織体制の検討につなげることができる」、「自組織の運営に今後も継続して活用できる」という評価も得た。よって、クラウド運用スキルマップはスキル強化のためのアクションへと繋げることに役立つとわかった。

4. 総括

本分科会にて作成した「クラウド運用スキルマップ（個人用／組織用）」は、組織の各メンバーの所有スキルを比較評価することにより、組織全体での強み弱みを明確化できるとわかった。

より有効的に活用するためには、1on1 のコミュニケーションツールとして利用し、上司と部下ですり合わせをおこない、動機付けした上で利用することを推奨する。その結果、部下も納得性を持って理解し、自律的に学ぶことにつながる。